ライフケアサポート情報誌

こもれび

KOMOREBI

特集　感染症パンデミック時代に向けて

2022
vol.39
SPRING

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部 鹿児島県済生会
済生会鹿児島地域福祉センター
〒890-0031 鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL.099-284-8250　FAX.099-284-8252
http://www.saiseikai-kg.jp

感染症パンデミック時代の
済生会鹿児島地域福祉センター

済生会鹿児島地域福祉センター所長　吉田 紀子

今年も百花繚乱の新学期が始まりましたが、新型コロナウイルス感染症は第6波の収束を待たずにBA-2株も含めた第7派の到来が伺われるこの頃です。

高貴苑はじめ施設に入所・入居者の方々には面会や外出もままならず、また在宅系サービスをご利用の方々も細心の感染予防対策のもとにご不便・ご不自由をおかけしています。皆様のご協力に加え、済生会鹿児島病院のご協力および地域福祉センター職員の厳格な感染予防対策等により、クラスターが発生せず、有難いことです。

感染症には新興感染症と再興感染症があり、新興感染症はこれまで認知されていなかった感染症で1970年以降新たに発生したものをさします。原因となる病原体の特定に時間がかかり、人類に免疫が獲得されていないため、今回のコロナウイルスのようにあっという間に世界中に拡大（パンデミック）し、ワクチンや治療薬ができるまで時間がかかり、大きな犠牲を出し社会も変わります。

今回も2年以上に及ぶコロナ禍で多くの方々が亡くなり後遺症に苦しんでおられます。社会も外出自粛や非対面型コミュニケーションなどが新たな生活様式となるなど多くの点で変化しました。

感染症パンデミックの際には犠牲者の多くが高齢者や弱者であるため高齢者介護福祉施設や事業所では、変化した社会生活様式のもとで、細心の注意をはらい感染症から利用者様を守らねばなりません。

職員の外出や体調管理等の厳しい自粛、予防接種、徹底した感染症予防対策、感染症拡大予防対策により、病原体を施設・事業所に入れないことを目指して職員一丸となって頑張っていますが、今回のコロナウイルス感染症パンデミックの際に最も重要な課題は感染症が疑われる時点でいかに速やかに検査・医療機関へ繋ぎ水際対策が取れるかという点です。その点では済生会鹿児島地域福祉センターの施設・事業所は済生会鹿児島病院から全面的バックアップをいただき、大変助かっています。

入所者の方々も鹿児島病院に守られながら安心して日々を過ごされています。

今後地球温暖化などにより、新たな感染症の発生もありうると思われます。

今後とも「コロナを含め感染症パンデミック下でも安心して自分らしく生きる」ことを支援していきたいとの思いで、鹿児島病院と一体となって職員一同も頑張ってまいります。

特集

感染症パンデミック時代に向けて

新型コロナ感染症の状況もまだまだ先が見通せなく
厳しい状況が続いていくかと思われます。
今回は、こうした状況の中での「済生会鹿児島地域福祉センターの現状」
そして「新型コロナウィルス感染症との共存」、
「新しい生活様式」に向けての取り組みを紹介してまいります。

コロナにも負けない高齢者施設

済生会鹿児島病院院長　久保園 高明

2019年に中国から発生した新型コロナ感染症は瞬く間に全世界に拡大し、鹿児島県でも翌年3月26日に1例目が確認されてから、感染者数の増減を繰り返し、現在は第6波のなかにあります。従来のコロナ感染症は、県外からのウイルスの持ち込み、接待を伴う飲食店での拡大、職場などでの拡大、そしてそのあとに医療機関へという流れでしたが、高齢者施設での発生はまれでした。しかしながら本年初めより「オミクロン株」が急速に拡大し、当初は教育施設や飲食店でのクラスターの発生が中心でしたが、2月になってからは全国的に高齢者施設でのクラスターの発生が最多となっています。

このようにコロナがまん延するなか、多くの高齢者施設を有する済生会鹿児島地域福祉センターでは、全職員が一丸となって施設内でのコロナの感染を防ぐことに尽力し、現在までのところクラスターの発生はありません。以前より私どもの済生会鹿児島病院は地域福祉センターとともに安心・安全な医療、介護の提供に努めてきましたが、今回のコロナ禍にあっては両者の結びつきを一層強くしてコロナ対策を行っています。

高齢者施設でのクラスターは、介護する職員が発端となることが多く、福祉センター職員は家族も含めて厳しい行動制限のもとで勤務しています。また介護の現場での感染対策については、済生会鹿児島病院から感染対策の専門家を派遣して指導しました。

高齢者の重症化を防ぐワクチンは、1月中にはほとんどの入居者、職員に3回目の接種を済ませています。

また施設内で発熱者が出た際は、いち早く済生会鹿児島病院に連絡してもらい適切に対応してきました。

「まん延防止等重点措置」が3月21日の期限で全面解除されます。コロナの感染者数を徹底的に抑えることから、経済活動を再開する方向に世の中は動いています。しかしながら高齢者施設においては今まで通りの徹底した感染対策を継続する必要があります。入居されている高齢者の方々をコロナから守るために、今後とも済生会鹿児島病院は地域福祉センターと一体となっての感染対策に全力を尽くしていく所存です。

済生会鹿児島病院

当院は，鹿児島市の中心部に位置し、開設91年の歴史を有する病院で，主に内科系疾患の患者様一人ひとりに寄り添いながら、外来、入院（地域包括ケア病床：40床，療養病床：30床）、健診、人工透析、リハビリ等の診療を行っています。
また、近年，高齢化の進行を背景に、通院できない患者様や慣れ親しんだ環境で療養したい患者様も増えていることから、国や県が推進する「地域包括ケアシステム」に呼応し、済生会鹿児島地域福祉センターと連携して「在宅療養支援病院」として訪問診療を行っています。昨年9月からは，訪問リハビリテーションも行っているところです。お気軽にご利用ください。

所在地：鹿児島市南林寺町1－11　TEL：099-223-0101

コロナ陽性者となって

―武岡台デイサービスセンター 職員体験記―

現在オミクロン株を主としたコロナウィルスが、日本、世界で猛威を振るい、感染拡大の渦中にある。鹿児島県でも、感染者数は2月初旬をピークにまん延防止等重点措置がなされ、徐々に減少傾向であるが、いつどこで感染するか分からない緊張した状態が続いている。

私も、職場の規程にならい、県外移動、お正月の帰省を自粛し、日常生活においてもマスク着用、手指消毒を意識し、生活範囲は主に職場とスーパーと自宅にとどめていた。

そのような生活を続けている中、2月初旬に娘の通う中学校より連絡があった。学校の生徒に陽性者が出て、娘が濃厚接触者となったとの内容であった。その日から、私と妻、娘姉の家族4人で自宅待機を行い、保健所の指示で3日後を目安に検査を行うこととなった。

自宅待機後、3日経過しても保健所からの連絡がなく、こちらからの電話も不通で、保健所も混雑していることが推測できた。

自主的に検査可能な病院で検査を行った結果、次女が陽性、妻と長女、私は陰性であった。次女は、検査当日までは症状が見られなかったが、結果判明の夜から発熱、倦怠感が見られるようになった。その後、2日後に妻が陽性、4日後に私が陽性となった。

家族の主な症状

中学生の次女（13歳）

主な症状　発熱（37～38度未満）、軽い喉の違和感、軽い咳き、倦怠感
発熱期間　約2日間
発症から症状改善までの日数　約3～4日間

妻（40代半ば）

主な症状　発熱（38～39度未満）、軽い喉の違和感、軽い咳き、倦怠感・筋肉痛
発熱期間　約2～3日間
発症から症状改善までの日数　約4～5日間

私（40代半後半）

主な症状　発熱（38～39度未満）、軽い咳き、倦怠感、頸部、背中の強い筋肉痛
発熱期間　約3～4日間
発症から症状改善までの日数　約5～6日間

まさか、自分が感染するとは…と驚きが隠せず、そして、家庭内で急速に感染するコロナウィルスの感染力に危機感を思い知らされることとなった。

自分の症状である高熱と体の痛みと倦怠感は、20年以上前にかかったインフルエンザの症状に酷似していると感じた。高熱が3日間続き、眠れない日が続いたが、3日目の夕方に解熱剤を服用することで、眠れるようになった。

倦怠感を含めた症状の全快を感じたのは、発症から6日後だったと思う。

コロナの症状

※あくまでも、本件の家庭内での話である

- 症状は、インフルエンザに似ている
- 高熱時は、解熱剤が有効である
- 咳き込みや喉の症状は軽症であった
- 味覚障害は見られなかった
- 年齢が若い方が症状は軽く、発症期間も短いと感じた。

～今、思うこと～

現在は、自宅療養が解除され、家族全員が社会復帰している。コロナ陽性を経て、社会全体として、それぞれが出来る感染対策を実践し、感染拡大のリスクの軽減に取り組まなければならないのは当然だが、これほどの感染力の高いウィルスを封じ込めることが出来るのか、感染リスクを伴う中で、安全に介護サービスが提供できるのかとの不安を感じるとともに、感染対策の重要性を再確認した機会となった。

また、職場、社会から2～3週間、離れることは、メンタル的にもストレスになった。職場への申し訳なさや自宅のみの生活環境による思考の不活性化など、マイナス面が頭の中を駆け巡る日々であった。自宅療養が解除されて外に出る時は、どこか気が落ち着かなかったことを覚えている。

今回の自宅療養の中で、メディアによる肥満体型、喫煙習慣ありの男性の致死率が高いという情報を聞きつけた娘たちが、隔離部屋に寝ている自分に対し、神妙な雰囲気で「今までありがとうございました」と、ドア越しに言いに来た出来事が、悲しいような、何とも言えないうれしいような楽しいような唯一、ホッとした瞬間でした。

変化する施設や住宅での生活

コロナ禍で私たちの福祉施設や住宅では入居者の生活様式をどうしても変化せざる得ない状況となりました。自由に外出することやご家族との面会の制限、施設や住宅内に外来者を自由に入館させることの制限など、どうしても内に向けての生活様式となっていきました。少しでも体調の悪い方、感染が疑われる方への対応をどうしようか感染委員会や職員間での話し合いが日常となりました。

三密の回避、換気は徹底され、当初はとても苦手とされていた入居者やご利用者のマスクの着用も定着していきました。

食事や活動の時のテーブルは、パーテーションを設置し、面会時もパーテーション越しの面会やタブレット等を活用してのオンライン面会となりました。

変化する生活の中で、私たちは入居者やご利用者のフレール予防の取り組みの必要性をとても感じています。気持ちの落ち込みが無いように、これまでと同じようにドライブ外出も行います。お分かりの通り外での会食とはいきません。車窓から、コスモスやアジサイ、街の風景を感じる事だけでも皆さんとても喜ばれます。室内で出来る活動や天気が良い時には屋外で出来る活動など工夫しています。

生活様式の変化に取り残されることなく、日常が日常であるように入居者や利用者の皆さんの生活を守っていきたいと思っています。

エントランスの花の植え替え

敬老会野点

お日様の中での焼き芋会

春のお菓子作り

春分の日を前に、済生会なでしこの杜では「さくら餅」作りを行いました。この日は、鹿児島市内も25℃の気温で、駐車場横の桜の樹も満開で今年一番の暖かい日となりました。
塩漬けしてある桜の葉の塩抜きから始まり、餡を丸めお米の準備をしました。食堂の中は桜の葉の独特の香りに包まれ、入居者からも「香りがいいね！」と。
皆さんに桜の葉を渡し、蒸されたお米を葉の上にのせて、丸めたこし餡をお米と桜の葉で包みさくら餅が出来上がりました。以前鹿児島市の茶業組合から頂いていたほうじ茶と一緒においしく頂きました。

季節を感じながらお菓子作りをして皆でお茶をする・・・。いろいろな制限のあるこの時期だからこそ、少しでもゆったりとした時間を大切にしていきたいと思います。

『さくら餅レシピ』10個分

〔材料〕

桜の葉の塩漬け	10枚
道明寺粉	120g
水	180ml
食紅赤	極少量
お砂糖	大さじ1.5杯
あんこ	150g
塩	少々

① 桜の葉塩漬けを水に10分ほど浸し塩抜きをします。
② その間にあんこを10等分に丸めておきます。
③ 水にごく少量の食紅を入れてほのかに赤みを付けます。
④ 道明寺粉に赤みを付けた水を加えて混ぜたら、ラップをかけ600wの電子レンジで5分加熱します。
⑤ ④のラップを外しお砂糖とごく少量の塩を加え木ベラで切るように混ぜ、濡れた布巾をかぶせ10分ほど蒸らします。
⑥ 粗熱がとれたら10等分に分けます。
⑦ ⑥にあんをのせて桜の葉で包んだら完成です。

外出もままならないこの時期ですが、和菓子とお茶で季節を感じる時間をつくってはどうでしょうか。

ZOOM研修会を開催してみて

― 教育研修委員会 ―

新型コロナウイルス感染症が流行し、世間に感染症の拡大への心配が広がり始めて2年が経過しています。一般的な感染予防対策は世間中に周知される中、私たち事業所では、利用者や入居者様の感染予防対策を徹底しているところです。

当センターや事業所では年間の研修計画を立案し、定期的な研修会を実施しています。しかし、一昨年度からは感染予防対策の「三密」を避ける観点で職員を集めての全体研修会の開催は見送りとなりました。令和3年度になっても新型コロナウイスは変異を遂げ更に感染リスクが高くなり、益々職員が一堂に会する研修会の開催が難しい状況となってきました。

センター全体の研修会を計画・実施する教育委員会としてはこの事態を回避し、何とか研修会を開催できないかと、委員会で検討・模索することになりました。その中で外部の研修会等で活用されていたZOOMを使ってみることになりました。

まず、全体研修会開催の前に、教育委員会のメンバーがZOOMを使えるようになることから始まりました。各自パソコンや携帯電話にZOOMのアプリを取り込みました。アプリを設定するだけでも大変で、いざ委員会でZOOMを開始しても新しいことにはなかなか不慣れで、携帯電話片手に「これはどうするの?」「これでいいの?」「画像は映ったけど声が出ない」等など、大騒ぎでした。それでもどうにかZOOMを使って各事業所と自宅を結んで委員会が開催できるまでになりました。そして満を持して12月にZOOMでのセンター全体研修会を開催しました。研修を事業所内で受ける人、自宅で受ける人様々でしたが、ネット環境の問題もあり、途中で画面が固まったり、音声が途切れたりと問題点も多く見られました。また、今回は資料配布も無い状態でのZOOM研修でしたので、講演の内容が十分に理解できなかったとの意見もありました。

今回初めての試みで、反省点も多々ありましたが、今後もICTを上手く活用していけるよう、教育委員会として取り組んでいきたいと思います。

済生会鹿児島地域福祉センター

キラ人 紹介

ホームヘルプステーション高喜苑
サービス提供責任者　宮崎 信一さん

ホームヘルプステーションのサービス提供責任者は、利用者やご家族、ケアマネージャーからの相談を受け、サービス提供の計画書を作成し、現場に動くヘルパーさんに業務の内容や注意事項、サービス提供の目的などの指示を出し、利用者の状況を逐一関係機関に伝え連携を図るお仕事です。宮崎さんは絵を描くことが特異で、訪問するヘルパーさんへの指示書もわかりやすく絵にかいて伝えることがあります。また、利用者の似顔絵を描いてコミュニケーションをとることもあります。

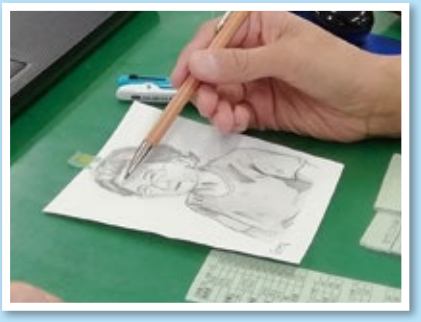
Creative（創造・工夫） & peace（和）

僕は絵をかくのが好きで、利用者様と僕で、お互い似顔絵を描きあいっこしたりすることもあります。また、退職・異動する職員の似顔絵を描いたりしています。
描くときは、まず「さぁ描こう!」と思って描いていません。景色の素敵な場所に行って写真を撮りたくなるのと同じで、ふと「あっ!残したいな」と思う瞬間です。そういうのが、ビビッと来るんです。それに描いて欲しいと希望があれば、関係性や関わったいろんな場面から、イメージを具現化して、技術的にはいろいろありますが、上手く描こうとはせず、「その人らしいな」が表現できるように気を付けています。

絵で表願することは、技術や知識を上げる努力であったり、情報の伝え方や「どうやればうまくいくか」や「どう展開しよう」などの課題解決のための想像力・創造力・工夫が大切だと感じています。
介護は利用者の「生の生活を、リアルタイムで支える」。これも絵を描くことと同様に、クリエイティブ要素が重要だと感じています。「あの方、いつもと違うな・・・」とか「片麻痺の方への対応」など、気づきや発見が大切で、日頃の観察や展開できる知識・技術を備えておくことも大切であると感じています。
僕は、絵や似顔絵を描くことで「わぁ、すごい!」「似てる!」と誰かが笑顔になってもらえることが、とてもうれしいのです。誰かを笑顔にし、ほっこりと和んだり癒したり、疲れていたり、悩んでいたり、苦しみなど、それらが少しでも和らげられたらと。大事な場面で、なにげない日常で「絵」がお役に立てるならと思っています。

宮崎　信一さん

介護福祉士
業務歴23年
趣味は愛犬「まさはる」くんとの散歩
他多趣味



社会福祉法人恩賜財団済生会がSDGsアワード賞を受賞

昨年夏のこもれびVOL36号で「わたしたちのSDGs」と題して特集を組みました。最近は日常的に耳にする『SDGs』の言葉、なんとなくは理解できているのが現状でしょうか。私たちセンターでも微力ではありますが取り組みを継続しているところです。

さて、当法人「済生会」が昨年末にSDGsアワード「SDGs推進副本部（内閣官房長官）賞を受賞したことをご紹介します。これは、社会福祉法人としては初めての受賞で、2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（SDGs）の達成に向けて、オールジャパンの取り組みを推進するために、岸田内閣総理大臣を本部長とするSDGs 推進本部が優れた取り組みを行う企業・団体等の表彰を 2017年から開始したもので、今年で5回目となるそうです。

受賞に至った済生会の取り組みは、創設以来の根幹である生活困窮者支援「なでしこプラン」で、ホームレスの健診、子どもの貧困、刑務所出所者の地域生活、障がい者の就労等の支援を行っています。また、昨年度より「済生会ソーシャルインクルージョン推進計画」をとりまとめ、閉じこもる高齢者、健康無関心層、買い物難民、難病患者の就労支援等、既存の医療・福祉の枠を超え、差別や分断の無い社会の実現を目指しています。平成31年4月に「SDGsと済生会」を発行、続編としてソーシャルインクルージョンのまちづくりをテーマに「まちをつむぐ」を令和2年7月に発行、その後、ソーシャルインクルージョンを普及・推進するためのサイト「知る・見つける・支えるソーシャルインクルージョン」を令和3年2月にリリースしています。今後も、差別や分断の無い社会の実現に向けて、行政機関、企業、各団体と協力、連携しながら SDGsへ貢献 してまいります。

※ソーシャルインクルージョンとは、日本語に訳すと「社会的包摂」、社会的に弱い立場にある人々を含むすべての人が地域社会に参加し、共に生きていくという理念で、済生会が目指す社会のあり方です。この理念はSDGs の「誰一人取り残さない」とする理念と同じくするものです。

『済生会ホームページより』

SDGs済生会福祉センターの取り組み

ペットボトルキャップ支援

福祉センターでは毎年「ペットボトルキャップ支援」を行っています。

センターの5S委員会のメンバーが中心となり各事業所から使用済みのペットボトルのキャップを回収し、年に1回、回収業者へ委託し「NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会」へ寄付する活動をしています。

キャップ4kgで一人の子供にポリオワクチンを提供できるそうです。今回は、9月に120kgを提供し約30人分のポリオワクチンの寄付が出来たことになりました。

これからも、身近に出来る取り組みを続けていきたいと思います。

知る・見つける・支える

ソーシャルインクルージョン

Social Inclusion ジンク!

わたしたちの「ソーシャルインクルージョン」

新たな取り組み

［済生会鹿児島地域包括ケアセンター］

おひとり様終活支援プロジェクト事業　その2

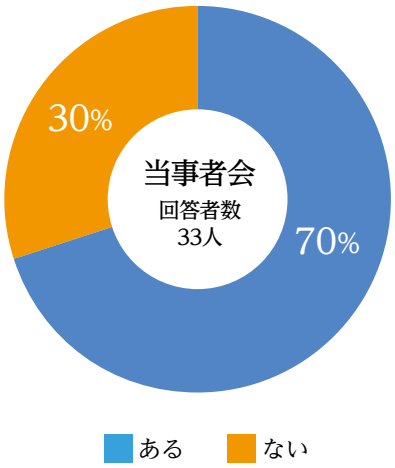
日本における急速な高齢化の中、一人暮らしで身寄りがなく、社会的に孤立した高齢者等の増加が見込まれています。その中で、身寄りのない方々の課題解決に向き合う為にスタートした「おひとり様終活支援プロジェクト事業」は、協議会開催の後に関係団体や当事者会の皆様にアンケート調査を実施しました。

アンケートは、医療機関、高齢者福祉施設、地域包括支援センター、民生委員児童委員協議会、司法書士会、当事者会へご協力いただき、相談の有無や相談の件数、相談の内容、身寄りのない方へ必要とされる支援内容、身寄りのない方の病院や施設での受け入れの現状、保証人等の有無による受入への考え方など複数のご意見を伺いました。また、当事者会の方々には、直面する課題や問題、終活や今後への不安なども伺うことが出来ました。

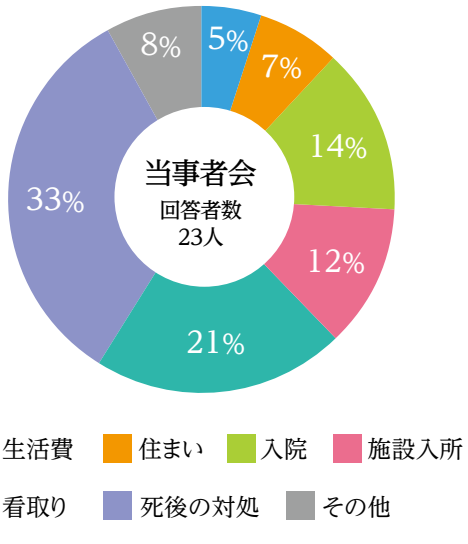
当事者の皆様へ「今後身寄りのないことで心配があるか」伺うと、7割の方が心配に感じることがあると回答され、その多くは、「亡くなられることへの心配やその後について」でした。

今後は調査の結果報告を第2回の協議会で行い、身寄りのない方々の課題解決に繋げられるよう検討していく予定です。

「身寄りがないこと」ことで、
今後心配に感じることがありますか。



「ある」と答えた方、それは
どのような事でしょうか。



〈基本理念〉「救療済生」の済生会精神に則り、福祉に貢献する。

〈基本方針〉

1. 私達は、利用者から信頼され、満足していただける介護・福祉を目指して、常に利用者の立場に立ち、利用者の気持ちになって介護を行います。
2. 私達は、利用者の権利を尊重し、その意思に添えるよう努めます。
3. 私達は、常に利用者の安全に気を配り、安心して介護が受けられるように努力します。
4. 私達は、最新の介護知識や介護技術の習得に研鑽します。
5. 私達は、地域の人々と交流を図り、人々が求めている要望に応えられるよう努力します。

〈利用者の権利〉

1. その人格を尊重される権利があります。
2. 社会的地位・国籍・人種・宗教・性別などにより差別を受けることなく、公正・平等に介護を受ける権利があります。
3. 自分が受けている介護に関するすべての情報について知る権利があります。
4. 自分に関するすべての個人的情報を守ってもらう権利があります。

特別養護老人ホーム 高喜苑
〔介護老人福祉施設・短期入所生活介護事業所〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-284-8253　FAX 099-284-8252

シルバーフラット武岡台
〔軽費老人ホーム／ケアハウス〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6870　FAX 099-283-6871

済生会なでしこの杜
〔サービス付き高齢者向け住宅〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-202-0710　FAX 099-283-4733

指定居宅介護支援センター高喜苑
〔指定居宅介護支援事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-4737　FAX 099-283-4733

グループホーム武岡5丁目
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目16番23号
TEL 099-282-6081　FAX 099-283-3533

グループホーム武岡ハイランド
〔認知症対応型共同生活介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-7231　FAX 099-283-7232

武岡台デイサービスセンター
〔指定通所介護・予防型通所介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880　FAX 099-283-6872

済生会ヘルスサポートセンター武岡
〔ミニデイ型通所介護・運動型通所介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6880　FAX 099-283-6872

なでしこ訪問看護ステーション
〔指定訪問看護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-281-9292　FAX 099-283-4733

ホームヘルプステーション 高喜苑
〔指定訪問介護・予防型訪問介護事業所〕
〒890-0022　鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875　FAX 099-283-6876

済生会サポートセンターなでしこ
〔定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所〕
〒890-0022 鹿児島市小野町2427番地2
TEL 099-283-6875　FAX 099-283-6876

訪問給食センター 高喜苑
〔鹿児島市委託事業所・配食事業〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-283-4730　FAX 099-284-8255

鹿児島県済生会
〔支部〕
〒890-0031　鹿児島市武岡5丁目51番10号
TEL 099-210-5460　FAX 099-210-5560

編集後記

春になりましたね。鹿児島の春はあっという間に過ぎてしまいますが、この季節を十分楽しみたいと思います。

さて、今月号では、センターの「キラ人」をご紹介しています。こもれびの編集に携わっている私としては、まさに「キラ人」発見でした。自分の取り組みや思い、考えを素直に文章にしてくれたスタッフ。文章の上手下手ではなく、私には「ビビット」くる内容で、まさに感動の一瞬でした。これに続き、センターの「キラ人」スタッフをご紹介できればと思います。